

IR カンファレンス 2026 -Winter-
2026年1月17日(土)

NANO
H O L D I N G S

NANOホールディングス株式会社

代表取締役会長兼社長CEO 松村 淳

NANOホールディングス株式会社 沿革



グローバルオファリング



Phase III
Start



時価総額 (億円)



2025.10.8
SBIとの
事業提携発表



株価 高値
10/8 131 円
10/16 254円



NANOホールディングス株式会社とは？



Public Strategic Investment Company (上場戦略投資会社)

ベンチャー企業や大企業の部門などを買収し、買収後にそれら企業や部門を Value upし、M&AやIPOなどでExitし、利益を創出します。

【企業概要】

商号	NANOホールディングス株式会社 Nano Holdings, Inc.
上場区分	東証グロース市場(証券コード:4571)
所在地	本社 〒105-6226 東京都港区愛宕二丁目5番1号 愛宕グリーンヒルズMORIタワー26階
設立	1996年6月14日(旧ナノキャリア株式会社)
代表者	代表取締役会長兼社長CEO 松村 淳 代表取締役CTO 秋永 士朗
事業内容	投資事業および医薬品などの研究開発・製造
グループ会社	Nano Bridge Investment株式会社 ・ 株式会社PrimRNA ・ NanoCarrier US, Inc.
HP	https://www.nano-hd.com/

2026年 世界における日本のポジショニング



構造変化が拓く日本市場の好機

市場構造の転換が起こると分析されており、海外からも日本市場に注目が集まり始めている

経済パラダイムシフト

新自由主義の終焉により、小さな政府から大きな政府への転換が進んでいます。

地政学的役割の拡大

米中対立やサプライチェーン再編で、日本の地政学的役割に相対的な競争力が期待されています。

投資機会と成長期待

構造変化は長期成長の好機であり、日本市場への注目が高まっています。

海外機関投資家の注目

ブラックストーン、KKR、ベイン、バークシャーなどの世界的な機関投資家が日本市場への投資を強化しています。

日本企業のグローバル化が加速

トランプリクエスト/アメリカに対する80兆円投資の日本企業への還流

創薬・先端医療への成長投資が加速化 — 創薬力強化政策を追い風に

日本版DOGE/日本成長戦略会議

租税特別措置や補助金を精査し、成長分野に再配分。**創薬・先端医療**が重点分野に設定、長期的な政策支援が明確化。

創薬力強化に向けた総合経済対策（令和7年度補正予算） 総事業規模3,300億円

【政府取組概要】

補助金の範囲拡大

これまでPOC取得までだった補助金が、第III相試験まで対象に拡大。

エコシステム強化

AMEDによる創薬エコシステム強化事業が数千億円規模で推進。
官民協議会設立や治験インフラ整備、VC連携支援を補正予算で実施。

資金リスク低減

ヘルスケア分野のファイナンス強化。認定VC連携制度や補助金活用により、後期開発の資金負担を軽減。
長期国家戦略による予算コミットメントで資金調達難を緩和。

グローバル展開支援

国際連携によるグローバル展開支援を活用し、海外製薬企業との大型提携を視野に入れた出口戦略が可能に。

【NANOホールディングスの戦略的ポジション】

政策追い風 × 戦略投資

- 政府支援を最大限に活用し、成長が期待される企業を投資家視点で選定・買収し、グローバル展開へ。
- 補助金と制度をレバレッジに、後期開発の資金負担を軽減し、IPO・M&Aによる出口戦略を実現。
- 日本市場の構造変化と政策支援を背景に、「死の谷」を越える成長モデルを構築。

東証IPO市場の 当社ビジネスに関わる変化



IPO環境の変化と影響データ

2025年 IPO総数

66 社

↓20

前年86社から大幅減。過去10年平均の90社台を大きく割り込む水準。

グロース市場

41 社

↓23

IPO減少の主因。審査厳格化と市場環境悪化が新興企業の出口を直撃。

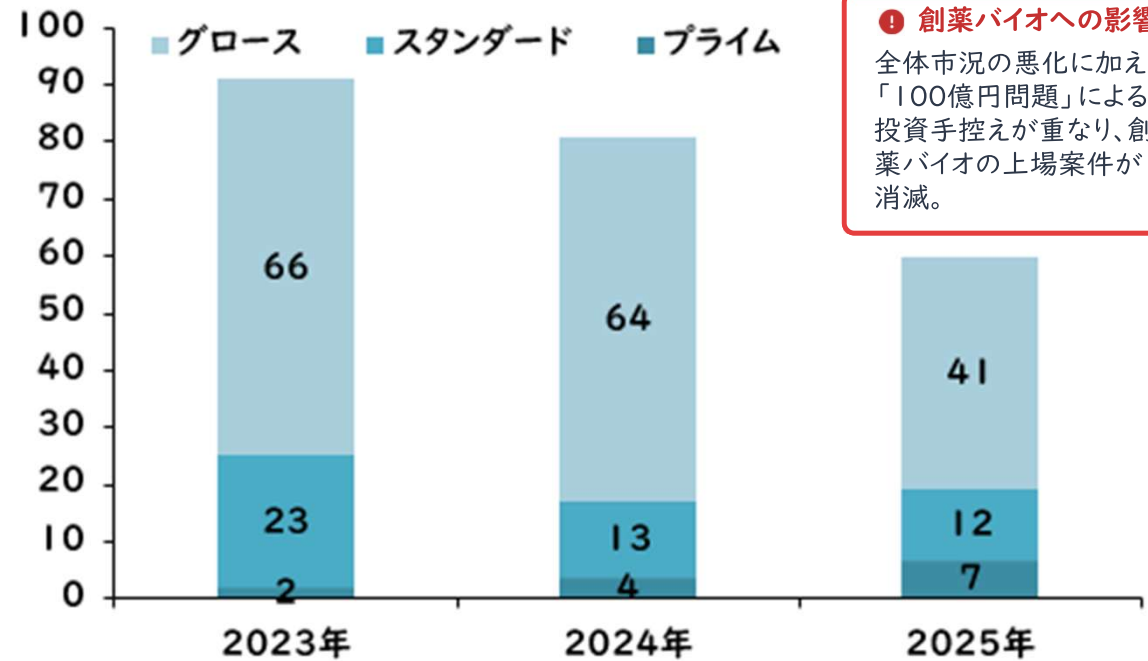
創薬バイオIPO

0 件

CRITICAL

2002年のアンジェス上場以来、極めて異例の事態。資金循環の完全な分断を示唆。

東証IPO社数の推移（市場別）



出所：PwC Japan（2023年）、帝国データバンク／マールオンライン（2024-2025年）。TOKYO PRO Marketは除外。

構造的な悪循環

2025年4月に東証より公表されたグロース市場の上場維持基準の見直し

IPO基準と投資家目線の乖離

東京証券取引所の上場維持基準（形式要件）はクリアできても、投資家が成長性を感じて資金を投じる水準には達していない。「どうせ時価総額100億円程度で止まる」というディスカウント・マインドが市場に定着してしまっている。

新たな「死の谷」の出現

IPO延期は単なる時期のズレではない。開発資金の枯渇を招き、無理な資金調達や開発計画の縮小、結果としての企業価値毀損という負のスパイラル（新たな「死の谷」）を生み出している。

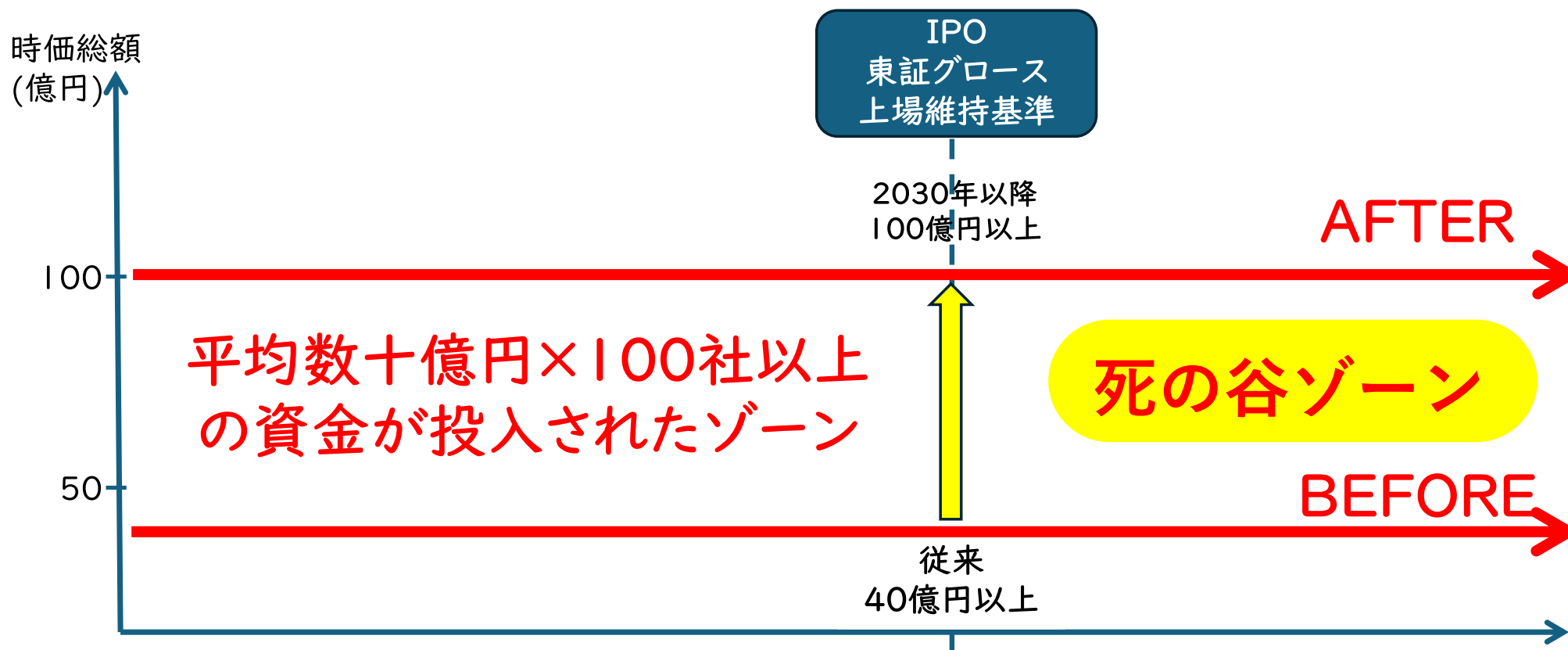
NANOホールディングスの投資対象



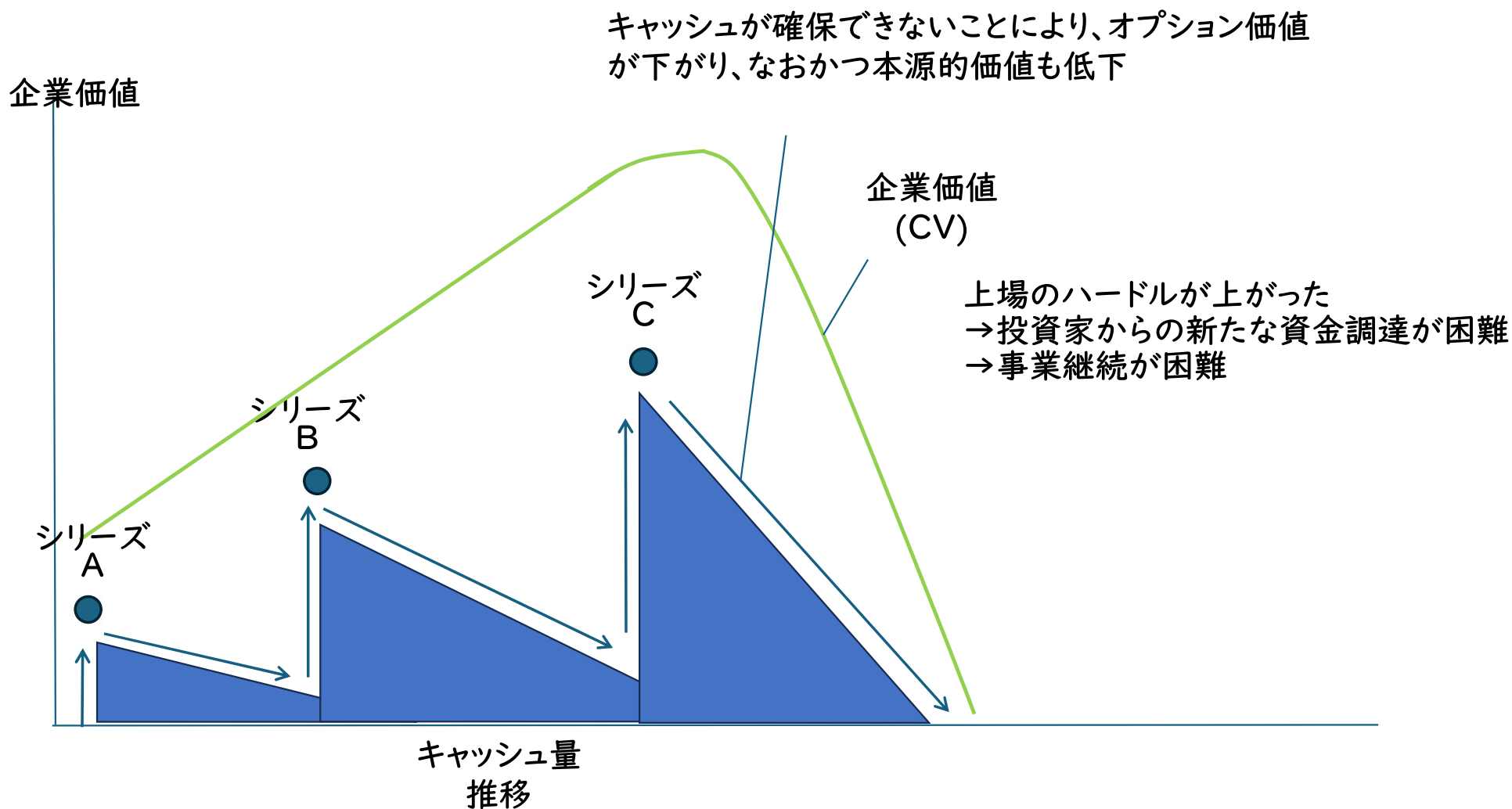
1. 未公開ベンチャー企業
2. 大企業からのカーブアウト

投資対象① 未公開ベンチャー企業

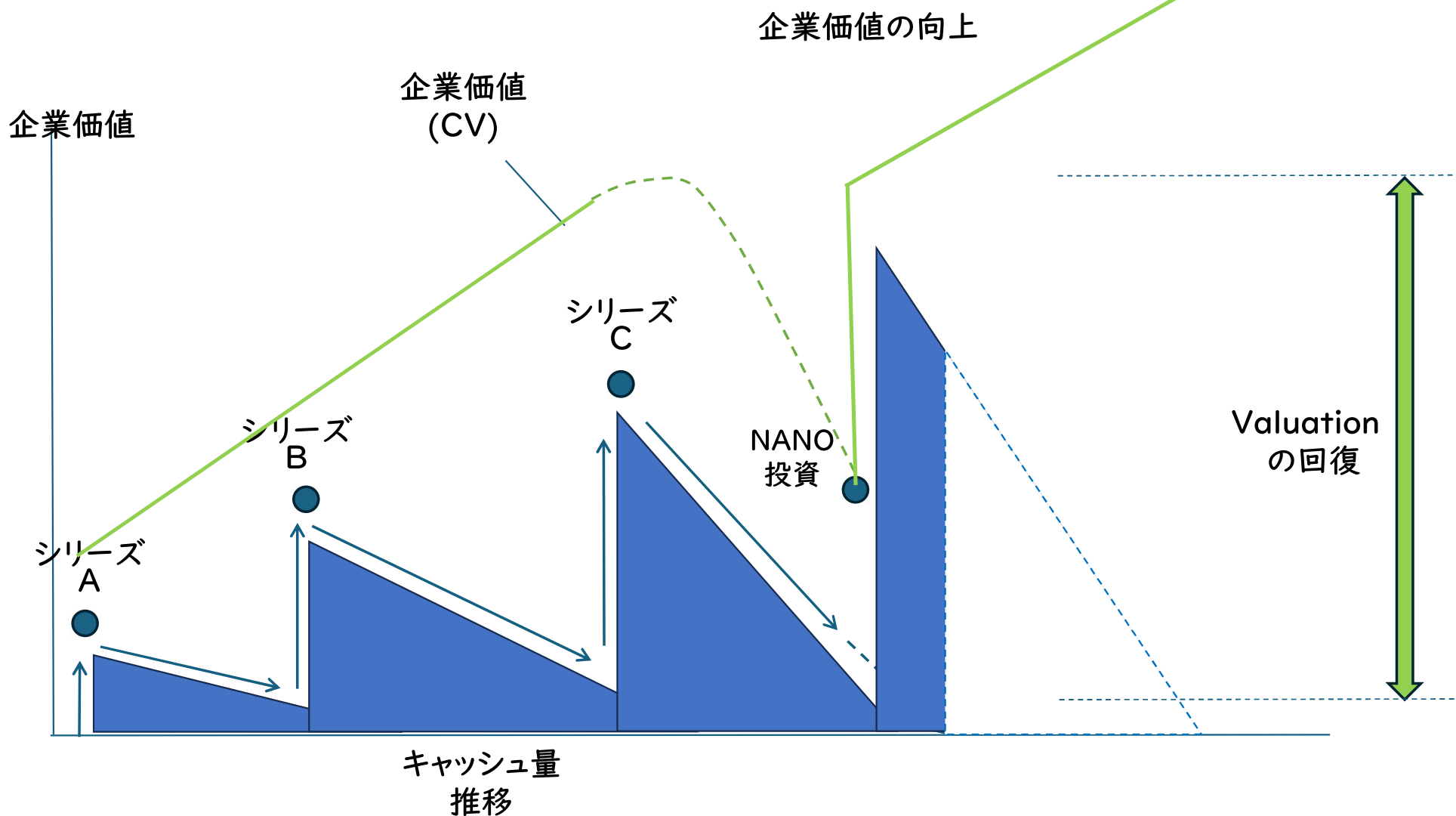
IPOを目指していた多くの未公開企業が突然「死の谷ゾーン」に落ちました



「死の谷」ゾーンの未公開バイオベンチャー企業のキャッシュ量と企業価値の推移

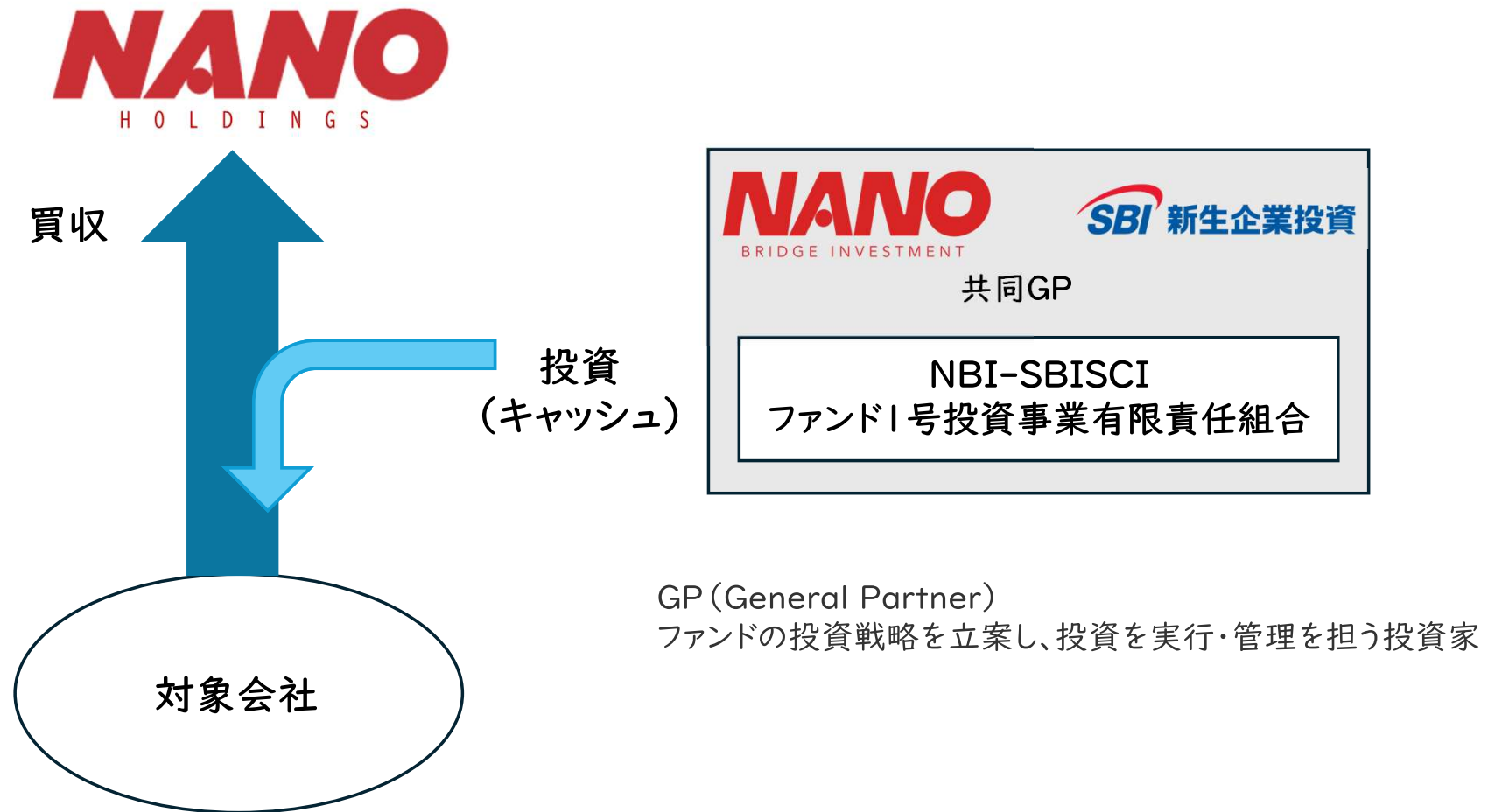


NANO投資後のキャッシュ量と企業価値イメージ



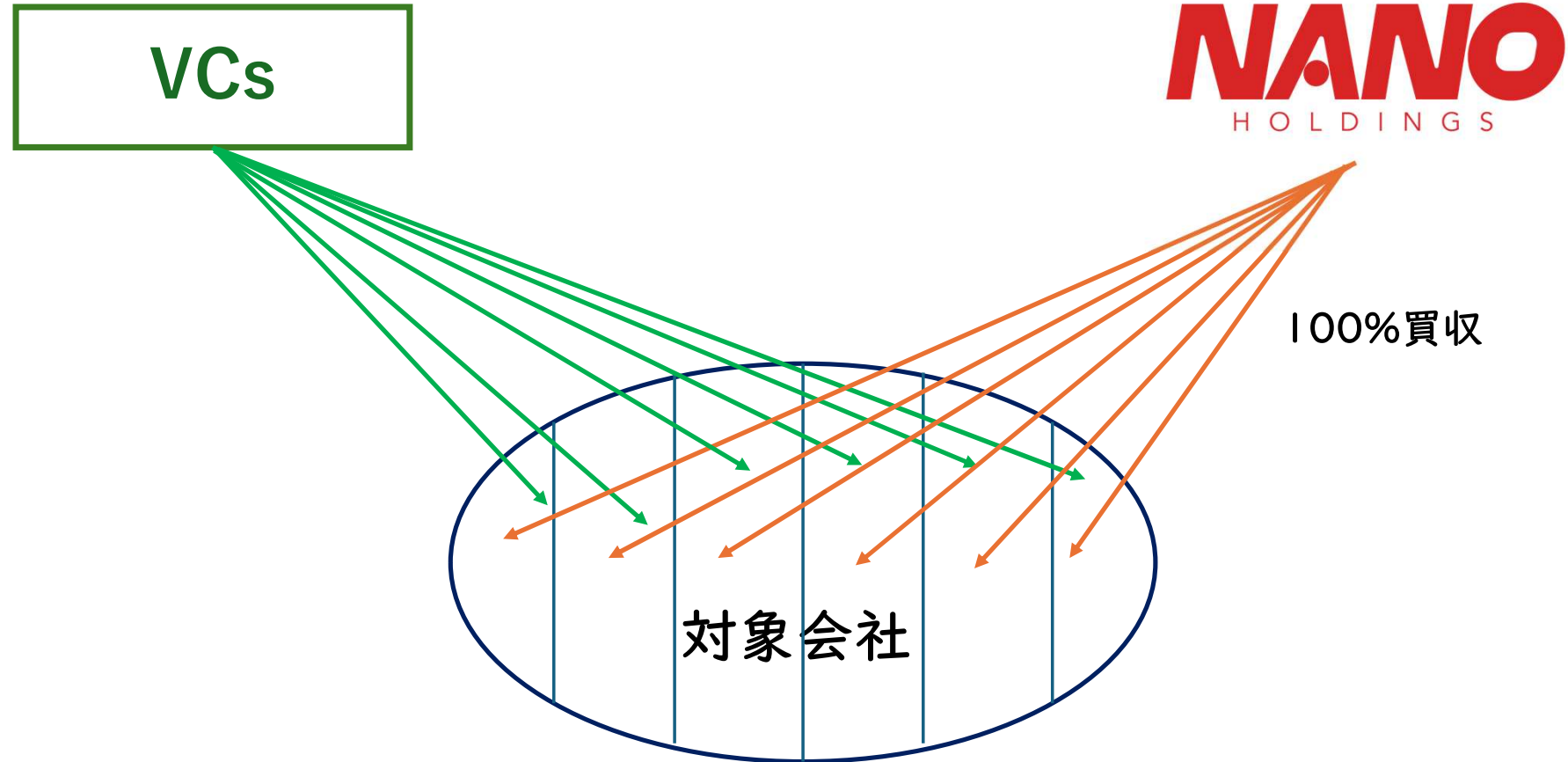
未公開企業投資の仕組み

NANOホールディングス株による株式交付とファンドからの投資により未公開企業を買収します。



未公開企業投資の仕組み：投資の手順①

株式交換で100%買収（対象会社の株式とNANOの株式を交換）



未公開企業投資の仕組み：投資の手順②

ファンドから成長資金の投入

NANO
HOLDINGS
100%保有



新株発行



New Cash



大企業からのカーブアウト



カーブアウトの必然性（大企業で過去10年で起きたこと）

①多角化経営

キーワード：SDGs 、ヘルスケア、環境、エネルギー

②マーケット環境の変化

アクティビストの台頭、利益率の高いものに集中
売却ニーズ

③センスの良い経営者

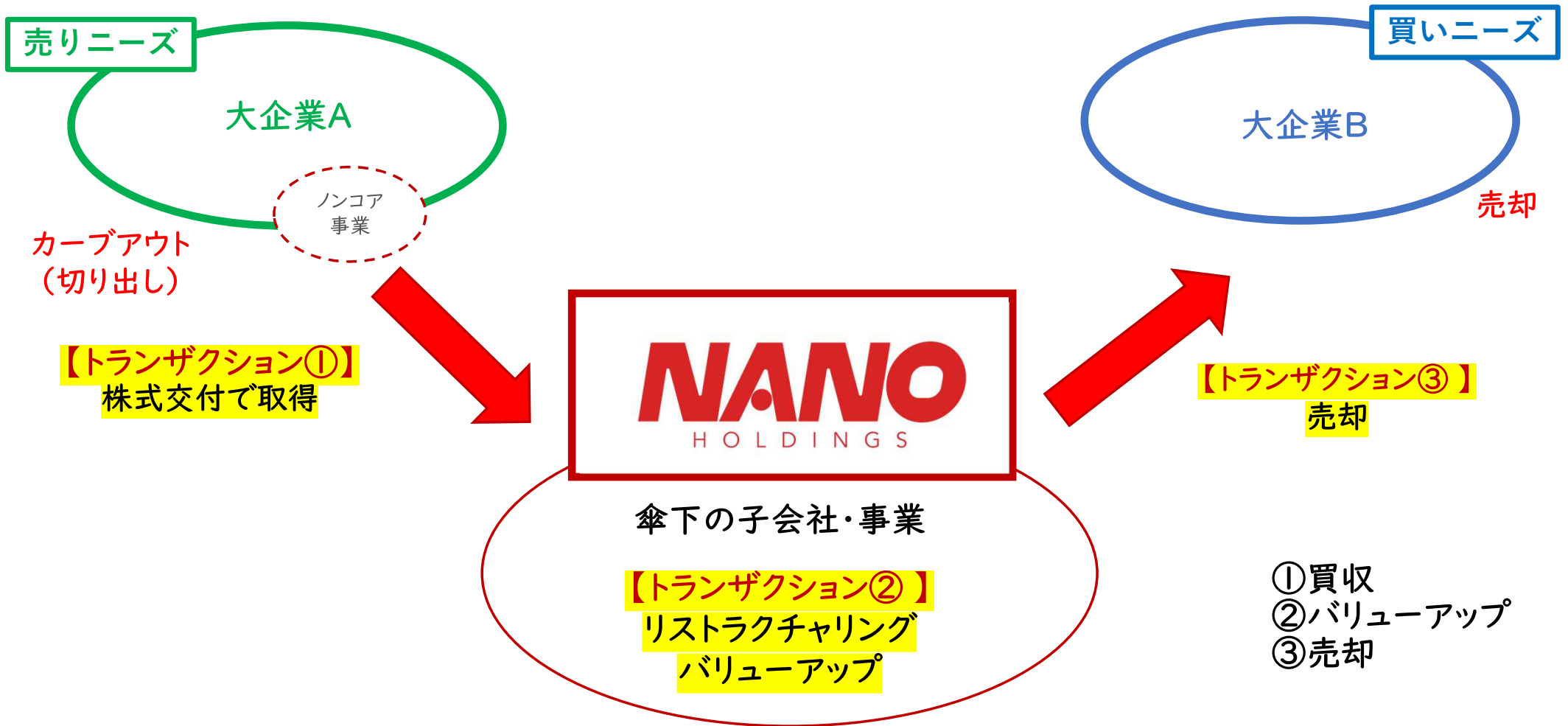
カーブアウト

カーブアウト戦略進捗状況

企業	進捗状況
大手製薬会社	製薬領域以外で主力事業化を志向。投資対象リストをシェアし議論開始。
大手製薬HD	当該製薬HDの事業や技術を融合する案件は有りそう。
大手化学会社	全社的構造改革の一環で協業可能。先ずは、ヘルスケア・医薬関連部門と協議。
外資系日本法人	日本におけるM&A・投資案件を扱う部署を紹介され協議開始。
大手企業HD	ヘルスケア部門の再構築中。売り・買い両面の可能性有。
大手製造企業	新規事業の立ち上げを計画中。その中で必要な技術の買収ニーズ有り。
大手材料企業	バイオ領域における買い・売りの案件待ち。LP出資と全社展開を協議。
大手化学企業	Topダウンで実務チームと面談実施。案件待ち。
大手製造会社	ヘルスケア領域の大きな構造改革推進中。比較的小規模な案件を模索。
大手製造会社	メディカルヘルスケア部門と協議継続。LP出資の可能性有。
上場部材企業	親和性・興味無し。
大手材料企業	ヘルスケア分野の拡大が全社課題。事業拡大における売りと買いの両面ニーズ。
大手製薬会社	カーブアウト検討中。
大手製薬会社	TOP面談実施。

投資対象② 大企業からの事業カーブアウト

企業のニーズに応じた企業や新技術を買収し、ウェアハウジング後に売却。



新しいビジネスを支えるTeam



Our Team - Legendary Scientists



Neil Gibson

4つの承認薬を生み出した、創薬戦略の第一人者

30年以上にわたり創薬の最前線で活躍し、オンコロジー領域で4つの承認薬を生み出した世界的リーダー。Pfizer Oncologyのエグゼクティブチームをはじめ製薬・バイオ業界で要職を歴任。COI PharmaceuticalsのSVPとして複数の革新的バイオ企業を創出し、AdanateやPDI TherapeuticsのCEOとして事業を牽引するなど、学術・産業界双方で創薬イノベーションを牽引しています。



Michael Houston, Ph.D.

創薬とCDMO領域で卓越した成果を牽引するバイオテクノロジーの革新者

ペプチド、タンパク質、siRNA、mRNAなど最先端モダリティの創薬で卓越した実績を誇る化学者。革新的APIやデリバリーフォーミュレーションを、コンセプト設計から研究、臨床開発まで一貫して主導。

Trilink Biotechnologiesでのリーダー職を経て、Artis Biosolutionsを創業しCSOとして事業を牽引。多様な専門家チームを構築・統率し、治療薬開発と製造の未来を切り拓く科学的リーダーです。



秋永 士朗

3つの創薬モダリティの研究開発を推進した稀有な実績を持つ、次世代創薬のパイオニア

協和発酵キリンで執行役員/フェローを務め、バイオベンチャー業界に転身。抗体医薬（モガムリズマブ上市）、核酸医薬（siRNA/ASO）、mRNA医薬という3世代のモダリティで実績を持つ数少ないサイエンティスト経営者です。次世代医療の実現に向けた開発化合物およびモダリティの見極めと事業化構想を主導します。



内藤 健一郎, Ph.D.

疾患領域、研究開発ステージ不問でプロジェクトの価値を見出す目利き

240年超の歴史を持つ製薬企業で約30年創薬に携わり、そのグローバル化にも貢献。すべての研究開発ポートフォリオを俯瞰しつつ、個々のプロジェクトの戦略的分析から価値最大化の方策を立案、推進。海外拠点とは信頼関係に基づき、それぞれの長所を活かしたプロジェクト実施サイトの配置と最速な進捗を実現しました。



片岡 一則, Ph.D./創業者

科学で投資価値を高める、ナノテクノロジーの世界的権威

ナノテクノロジー分野の世界的権威として、投資先技術の科学的評価に深い知見を提供。買収企業の価値向上を支援し、産学連携とグローバルネットワークを活かして事業成長を後押しします。卓越した専門性で、次世代産業の創出に貢献する強力なアドバイザーです。



岡野 光夫, Ph.D./創業者

再生医療の未来を支える、世界的イノベーションの架け橋

再生医療分野で細胞シート工学を確立し、臨床応用に向けた研究を世界的に牽引してきたパイオニア。投資先技術の科学的評価に深い知見を提供し、買収パイプラインの価値向上を支援します。国際的な研究ネットワークと産学連携の経験を活かし、次世代医療の創出に貢献する強力なアドバイザーです。



中島 大輔

「全世代モダリティ」を制覇。研究・開発・承認を一気通貫で完遂する稀代のグローバル創薬戦略家

国内製薬会社にて約30年にわたり、薬物動態および臨床薬理の専門家として、低分子化合物、タンパク質医薬、抗体医薬、そして核酸・mRNA医薬というモダリティ全てで実績を確立した稀有なサイエンティストです。直近では、オーストラリアでの現地法人設立とFIH試験開始を成功させるなど、グローバルな視点での事業立ち上げと開発加速化を実現します。



白石 紀彦

科学と戦略を統合し、次世代創薬を導く実行の羅針盤

内資系製薬企業にて20年以上にわたり創薬研究、国内外臨床開発、経営企画新規事業開発のキャリアを有します。カッティングエッジなプロダクト・サービスの価値をサイエンス視点で見極めるとともに、引き続き研究部門をリードし、mRNA医薬品創薬を牽引し新たなパイプライン創製に邁進します。

Our Team - Investment Professionals



松村 淳

戦略的投資で企業成長を牽引する投資家・経営のエキスパート

野村證券で日本および欧州でのコーポレートファイナンスに従事したあと、ウィズ・パートナーズを創業し、過去運用したファンドは2000年代のグロースセクターにおいて世界一のパフォーマンスのトラックレコードを達成したファンドマネージャー。独自の投資手法とハンズオン戦略で投資企業の価値を高めてきました。卓越したファンド組成力と、国内外の投資家や企業経営者との強固なネットワークを有しています。



飯野 智

国内外で豊富な実績を持つファンドマネージャー

ベンチャーキャピタル (VC) およびプライベート・エクイティ (PE) 業界で25年以上の経験を持ち、数々の成長企業への投資を成功に導いてきました。日立製作所での海外技術提携、CSKベンチャーキャピタルでのバイオベンチャー創業期支援、ウィズ・パートナーズでの上場企業のバリューアップなど、国内外の投資ネットワークと実績を兼ね備えています。



小坂 真

ベンチャー企業と利害関係者との円滑なコミュニケーションに貢献

金融機関、監査法人、コンサルティング会社において内部管理、リスク管理分野の実務・コンサルティングに25年間従事したのち、技術系ベンチャーの取締役CFO/COO、さらにカーブアウト企業の内部監査室部長としてガバナンス・内部管理体制の構築、上場審査対応経験も有しています。国際公認投資アナリスト (CIIA)、公認内部監査人 (CIA)、認定上級IPOプロフェッショナル (AIP)。



山中 洋信

グローバル視野の投資管理・ディールプロセス管理

投資トランザクションマネジメントを統括。医療・バイオ領域で20年以上のグローバル経験を基盤にM&Aとカーブアウトの実現プロセスを管理。Danaher本社で事業開発を推進し、Leica Microsystemsスイス本社で医療機器の企画から米欧亜ローンチまでを主導、米国ベンチャー買収・統合も含む部門再興を達成。キャリアの起点は経産省での政策立案。戦略思考と実現力で、投資価値の向上を追求します。



植坂 謙治

豊富な知識と経験で当社のファイナンス戦略をリードする

銀行での30年以上の業務経験を有し、現在はSBI新生銀行で専務執行役員としてM&Aファイナンス・プロジェクトファイナンスをはじめとしたストラクチャードファイナンスの総括責任者を務め、シニアおよびメザニン・エクイティといった様々なファイナンスを熟知しています。さらにSBI新生企業投資の代表を兼務し、ベンチャーにおけるエクイティとデット両方のファイナンスにおける多数の実績も有しています。



江尻 隆

金融・企業法務の知見で、攻めと守りを統合する

日本最大の法律事務所である西村あさひ法律事務所の創業者の一人として、50年間にわたり弁護士業務に従事し、特に金融法務と企業法務の分野で豊富な経験を積んできました。今回のメンバーとは、この20年間にわたり様々な形で協働してきた実績があります。今後はコンプライアンスとガバナンスに細心の注意を払いながら、企業成長に向けて積極的にアクセルを踏む役割を担います。



西村 和将

バイオ投資に精通した投資プロフェッショナル

不良債権・ベンチャー投資で18年以上の投資経験を持ち、2019年よりSBI新生企業投資の旗艦ファンドで投資委員を務め、良好なトラックレコードを有しています。グローバルの再生医療ベンチャーへの投資を行うファンドでのファンドマネージャー経験、バイオベンチャー2社の社外取締役経験を持ち、バイオ業界にも精通しています。



馬 寧

9社のIPOを携わるベンチャー投資のプロフェッショナル

投資銀行・ベンチャー投資で計15年以上の投資経験を持っています。共同ファンドやCVCのファンドマネージャーとして、ファンドの組成からクロージングまで一貫通貫の経験を持ち、優れたトラックレコードを有しています。動画コンテンツ、再生医療、半導体素材など、幅広い領域のスタートアップへの投資を通じ、9社のIPOと数多くのM&A案件を主導しました。

Our Team – Management Professionals



富所 伸広

投資先企業のバリューアップとカーブアウト戦略を推進

日東電工で代表取締役専務を務め、ディスプレイ材料事業を数億円規模から数千億円規模の主力事業へと成長させた立役者です。業界の成熟期にも、技術革新・構造改革・サプライチェーンとの協業などを通じて、高収益を維持する戦略的経営を実践してきました。今もなおグローバルなネットワークを有し、加えて、創業CRO「アクセリード」の元CEOとしても製薬業界にも精通しています。



金子 好久

経営基盤と資本戦略を熟知した、企業成長の総合プロフェッショナル

大和証券でコーポレートファイナンス部や法人部門にて企業の投資銀行業務に長年従事し、専務取締役として事業法人部門、IPO部門を統括後、大和ファンドコンサルティング社長としてアセットマネジメント業界に深く携わっています。さらに、広報、IR、総務、秘書、メンタルヘルスサポートなどコーポレート部門の知見も有しています。



Rocky H. Kato

30年超の実績で成長と革新を推進

Nano Holdings USで米国事業の拡大とポートフォリオ企業の成長加速を牽引。ヘルスケア、テクノロジー、環境分野で30年以上にわたり成功を収めてきた経験豊富なリーダーです。日立製作所では、ロンドン、サンフランシスコ、東京を拠点にグローバル事業開発とベンチャー投資を推進し、15年以上にわたり高い投資リターンを実現しました。CEOおよびCOOとして複数のベンチャーをIPOやM&Aに導いた実績を持ちます。キャリア初期にはプロのフォーミュラレーサーとして国際的に活躍し、その精密さと推進力は現在のビジネスリーダーシップにも反映されています。



片山 龍太郎

経営者、投資家として企業の成長と再生に精通

日本企業や複数の外資系企業を経営し、多くの実績を挙げています。産業再生機構執行役員MDとして、当時史上最大の再生案件を成功させるなど、同機構全体利益の過半を獲得しました。再生企業や成長企業の社外取締役や顧問を多数務め、高い評価を得ています。ウイズ・パートナーズの創業にも参画しました。累計100件を超えるM&Aに関与した実績を持ち、各界に広いネットワークを有しています。ハーバード大学MBA。



中富 一郎

広範なネットワークと経験で、当社の成長戦略を支える

米国NASDAQと東証マザーズでのIPO経験を持つ創業者。企業理念の浸透と投資判断において、投資家視点と経営者視点を兼ね備えたリーダー。製薬業界のトップとの強力なネットワークを活かし、当社および投資先企業の事業成長と企業価値向上に貢献します。また、国際ライセンス協会 (LESI) 会長として、グローバルな知財ネットワークと事業開発経験を有しています。



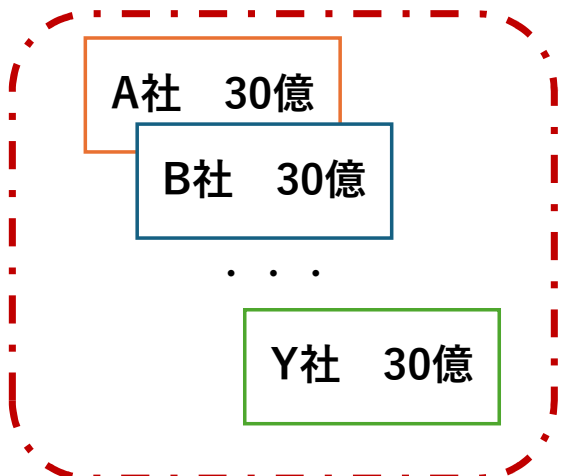
Gilad Gat

グローバル投資と経営に精通したディールメイキングのプロフェッショナル投資・経営・銀行業務で30年の経験を持ち、PE・VCファンドと連携し米国、日本、スペイン、イスラエルでエネルギー、ヘルスサイエンス、ハイテクなど幅広い分野の大型取引を主導。複数の企業で管理職を歴任し、成長戦略やM&Aを成功に導いてきました。現在はEnlight Holdings取締役、Sightline Systems会長、HeartBay Advisors マネージングディレクターを務めています。ヘブライ大学MBA (国際金融・情報システム)、経済学学士。

時価総額増大への道筋



バリューアップした企業の積み上げによる企業価値の増大 (イメージ)



9社買収

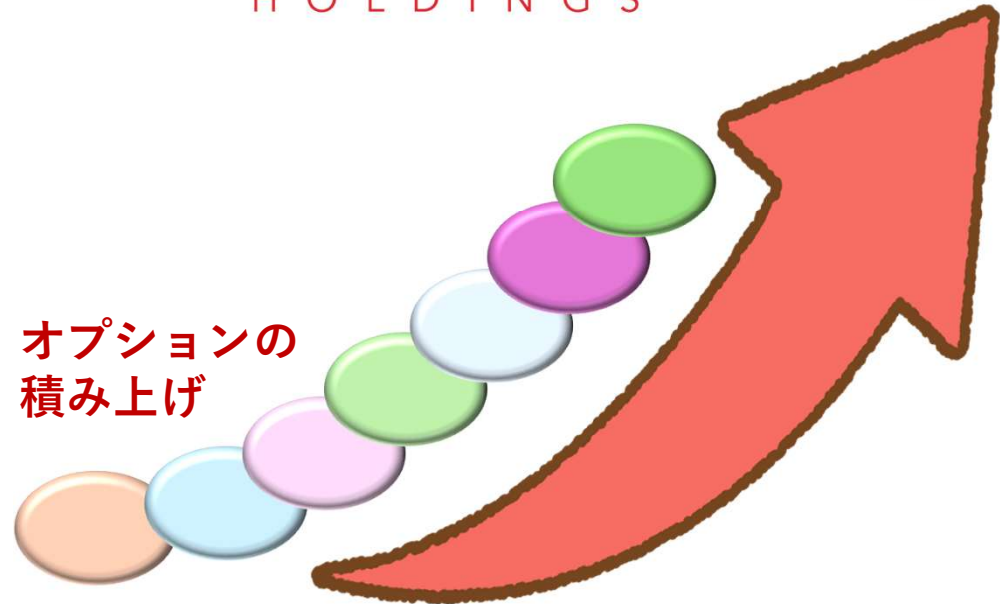
各社へ15億円投資
(総額135億円)



オプション
バリュー
各社 200億円 × 9社
企業価値
合計1800億円



企業価値
600億円※以上
～1800億円



オプションの
積み上げ

NANOHD企業価値 (現時点)
約100億円

※バリューアップの成功確率：1/3と仮定
内訳：成功1社/維持1社/失敗1社

ありがとうございました

NANO
HOLDINGS

本資料には、当社の事業及び展望に関する将来見通しが含まれておりますが、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している予想とは大きく異なる結果となる可能性があることを御承知おき下さい。

NANOホールディングス株式会社 コーポレートコミュニケーション部 03-6432-0020